

---

# フミクンとフミクン

メフィスト牛子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

フミクンとフミクン

### 【Zコード】

Z0001D

### 【作者名】

メフィスト牛子

### 【あらすじ】

同棲して半年になるフミクンが、昨日一人になりました。

## 口説し難む非口説（福井県）

よくわからぬこ内容で。

「みーちゃん、『一ヒー淹れてよ』」

「なあ〜、俺の時計知らん?」

「『一ヒーまだ〜?』

「時計〜!」

半年前から同棲しているフミクンが、昨日から一人になった。

なんでもって言われてもあたしにはわかんない。

昨日一緒に、TSUTAYAで借りてきた最新作『オフィスクリスマス道子2』を見ていた時、フミクンはあたしの目の前で、突然二人になってしまったんだ。

丁度、主人公の道子が、悪を倒してムエタイの踊りを披露し、拍手喝采を浴びている場面だった。

急にフミクンが、

「あれつ?なんかヘン。ちょっと見て?」  
と言ひ出した。

「どうしたの?」

「なんかお尻がムズムズしてるみたいな...」言い終わらないうちに、  
フミクンのお尻のあたりがもぞりと動いた。

「えつ?何?お尻、なんかヘンだよ?」

「う、うん。ほんと何だろ?あれ?あれれれ?」トランクスの裾から、誰かの足の指がのぞいた。

驚いたあたしは

「ひいっ！！」と、その場から飛び退いた。

「えっ、何？どうなつてんの？ええっ？」

フミクンは半狂乱で、自分の尻のあたりをまさぐる。手が、例の足（の指？）を捉えた。

何らかの手応えを感じたのだろう、フミクンの顔はみるみる真っ青になつて、ブルブルと震えだした。

もう何が何だか訳がわからない。あれは本当に足の指なのか？皮膚炎かも…？いや、ないな。確かにあれば、人間の足だつた。でもなんで？

めちゃくちゃ怖いけど、やつぱり確かめなきゃいけない。といつ結論が出るまでに、軽く10分はかかるだろう。

あたしは部屋の隅から、

「フミクンー、ちよつとパンツ脱いでみなよー」と呟んだ。

フミクンは、

「え？今？」とでも言いたげな目で、じつちを見た。

恥じらつていいんだ！

直感的にそう悟つた。

いやいやこやこやいや、あんた今、それどうじやないでしょ！

ちよつと彼への鬱陶しさを感じつつも、あたしは勇気を振り絞つて、パンツを脱がしにかかった。

パンツに手をかけるとフミクンは、

「あっ、ダメ…」と切なげな声を漏らしたが、あたしは無視して、それを一気に引きずり下ろした。

！

なにも無い！

そこにはいつものフミクンの尻があるだけだった。

「なんだ、見間違ったのか～、大丈夫、なんもないよ～」と、言おうとした時、フミクンの鼻から、ちらりと足の小指が覗いた。

つづく

口常で潜む非口常（後書き）

ほととぎすが続くのか…

## 急 展 開（前書き）

見てもしょーがない

## 急展開

今度は鼻！？

どうやってこの鼻の穴に納まっているのか、考えたくもないが非常に気になる。

それに今度のそれは、顔面に堂々と現れ、痒いのか時折、もぞもぞ動いたりしている。

するとフミクンが、またあの甘い吐息を漏らした。

なぜかあたしは、恐怖よりも、フミクンに対するイラつきが倍増した。

（もう！知らないんだからっ！キモッ！フミクンキモッ！これだから二一トはーー！）

あたしはフミクンの顔から田をそらせた。

でも……でもなんで、尻からいきなり鼻に移動したんだろう？

だが、その答えは、ばかばかしい程に単純明快だった。

パンツを下ろされ、鼻から足の小指を出して悩ましく悶えているフミクンのななめ後ろに、そのフミクンを睡然と見つめているパンツを履いたまま尻から足指フミクンが固まっていたのだ。

「ちょっとふつ、増えてるつー？」 そう、この時すでにフミクンくんは、一人になっていたのよね。

さすがのあたしもこれには正直、肝を潰した。ちょっとちびつたことは伏せておくけれど、人間って、極端にパニくると、思考を一時ショートさせるものなのね。

それからどれくらいの時間が経ったのか…クリスマス道子のエンドロールが終わった時、私たち3人は、ほとんど同時に、ハツと我に返った。

フミクンとフミクンは、お互い気まずそうに軽く会釈を交わし、あたしはどうと、それをポカンと口を開けて見守った。

3人は無言のまま、借りてきたもう一枚のDVD（ホタルの墓リターンズ）を誰が言い出した訳でもないが、貸し出し期間が一泊なのでという理由で、なかばしかたなく見ることにした。その場にいた3人が、今までそのことに気づかなかつたなんて有り得るの！？

そんな声も聞こえてきそうなこのお話、次回、最終回！『足の指は関係なかつた』をお見逃しなく！

## 急 展 開（後書き）

見てやるうという人必見！次回最終回！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0001d/>

---

フミクンとフミクン

2010年10月28日06時56分発行